

クマハギ被害を減らすために

臼田寿生

クマハギとは？

「クマハギ」とは、ツキノワグマが樹木の皮を剥ぐことをいいます。

近年の研究では、

- ①スギ、ヒノキの内樹皮周辺の糖分含有量が
高くなる春から夏に集中発生すること
- ②被害地のクマの糞には内樹皮の破片がたく
さん含まれていること

が確認され、クマハギの主な目的は「食料の摂取」であるといわれています。



●クマハギ被害を受けた森林

クマハギ被害の特徴は？



●幹に残された歯形

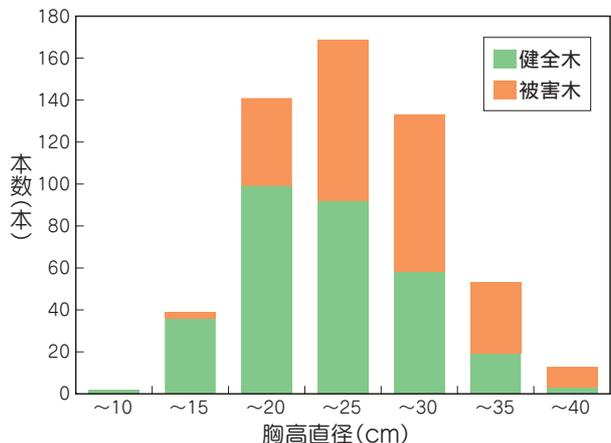
クマハギ被害の主な特徴は次のとおりです。

- ①4～8月頃に集中して発生する
- ②幹の山側樹皮が剥がされることが多い
- ③剥皮された幹には、上下方向に平行した歯形が残っている
- ④剥がされた樹皮片は大きく、幹に残っていることが多い

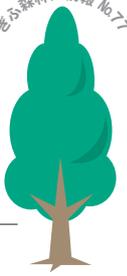
クマハギ被害の影響は？

被害木は、木材が変色するなど商品としての価値が低下します。

実際に被害にあった森林を調査してみると、図のように成長が良い（直径が大きい）ものほど被害を受けやすい傾向にあり、被害が大きな損失を与える要因となっています。また、剥皮が激しい場合には、樹木が枯死するなど森林機能への影響も心配されます。



●クマハギ被害林分の胸高直径分布



岐阜県のクマハギ被害

森林研究所では、平成18年度から県内のクマハギ被害の実態調査などを行っています。

現在のところ、**根尾川、揖斐川流域と飛騨北部**を中心に被害が多く発生しています。

地域別の被害特性としては、根尾川、揖斐川流域では、幹の全周を剥がされる立ち枯れ被害が多く、遠くからでも確認できます。

一方、その他の地域では立ち枯れに至ることは少なく、森林内に入らなければ被害に気づかない場合があります、注意が必要です。

被害区域は年々拡大する傾向にあり、被害地周辺の地域では**見回りなどによる早期の被害把握**に努めることが重要です。



● 立ち枯れが発生した被害地

クマハギ被害を減らすために

クマハギ被害を減らすにはどうしたらよいのでしょうか？

被害対策としては、樹木に保護材を設置する「**樹木保護対策**」が主流となっていますが、その効果などの検証は十分に行われていないのが現状です。

このため、森林研究所では代表的な防除資材を2地区の試験地（飛騨市、本巣市）に設置し、その有効性及び有効期間の検証を実施しています。



● 樹木保護対策（ポリエチレンテープ巻）

このうち、資材設置後約1年が経過した飛騨市の試験地では、資材を設置した樹木への被害は発生していません。

しかし、これら試験地は、まだ設置後の経過期間が不十分であることから、引き続き観測を継続しながら効果等を検証していきます。

これら現地調査に基づいて「岐阜県版クマハギ防除指針（仮称）」を作成し、着実な被害対策の推進を支援していく方針ですので、被害に関する情報提供など皆さまのご協力をお願いします。